



資料(人)01-1

廃炉基盤研究プラットフォーム 研究人材育成検討会について

廃炉環境国際共同研究センター Collaborative Laboratories for Advanced Decommissioning Science (CLADS)

福島研究開発部門 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構



1F廃炉研究に係る研究人材育成検討会

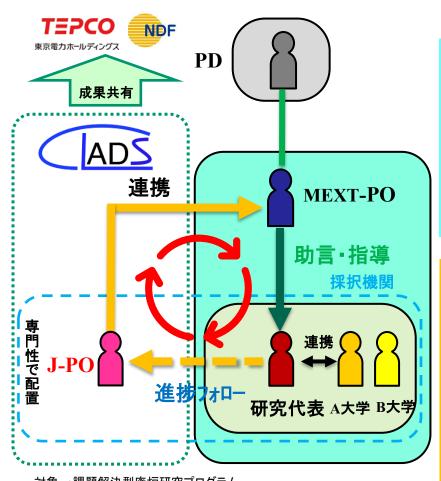


1F廃炉研究に係る研究人材育成検討会	委員
○目的:東京電力ホールディングス株式会社福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所の廃炉に関する基礎・基盤研究を通じた研究人材	委員長: 岡本 孝司 (CLADS センター長)
育成に関する取組を推進することを目的とする。	委員: 小川 徹 J-PO JAEA CLADS
│ ○所掌:次に掲げる事項について協議等を行う。 │ (1) 人材育成に関する取組の企画及び実施に関する事項 │ (2) 人材育成に関する情報共有に関する事項	鈴木 俊一 英知 人材育成(1期) 東京大
(3) その他、必要な事項	渡邉 豊 英知 人材育成(1期) 東北大
○組織構成:委員長及び委員をもって組織する。	小原 徹 英知 人材育成(1期) 東工大
○委員長:委員長は、廃炉環境国際共同研究センター長	宇埜 正美 英知 人材育成(2期) 福井大
○委員:委員は、機構の職員及び外部の有識者からセンター長が指名する。	鈴木 茂和 英知 人材育成(2期) 福島高専
○実行作業会:検討会は、人材育成に係る具体的な活動を進めさせる必要があると認める時は、実行作業会を置くことができる。	高貝 慶隆 英知 人材育成(2期)、研究人材育成(1期) 福島大
・実行作業会は、主査及び委員をもって構成する。 ・主査及び委員は、機構の職員及び外部の有識者からセンター長が指名	小峯 秀雄 英知 人材育成(2期) 早稲田大(地盤工学会)
又は委嘱する。	淺間 一 英知 研究人材育成(1期) 東京大
○任期:委員長及び委員の任期は、1事業年度内の期間とする。ただし、 再任を妨げない。	永井 康介 英知 研究人材育成(1期) 東北大
│ │○招集:検討会は必要に応じて委員長が招集する。 │	竹下 健二 英知 研究人材育成(1期) 東工大 (順不同)
○事務局:検討会の事務局は、廃炉環境国際共同研究センター研究推進 室が行う。	



MEXT-PO/J-PO体制による研究支援





対象:課題解決型廃炉研究プログラム 国際協力型廃炉研究プログラム 研究人材育成型廃炉研究プログラム

プログラムオフィサー(PO)

阿部 豊 筑波大学副学長•教授 共通基盤型 東京電力HD株式会社福島第一廃 課題解決型 炉推進カンパニー(廃炉技術担当) 電力中央研究所首席研究員 小山 正中 課題解決型 寺井 降幸 東京大学名誉教授 国際協力型 研究人材育成型

山本 章夫 名古屋大学大学院工学研究科教授 共通基盤型

J-POメンバー

小川 徹 CLADS客員研究員 前CLADSセンター長

長岡技術科学大学客員教授

森 治嗣 CLADS客員研究員 前北海道大学教授

深澤 哲生 CLADS非常勒嘱託

前日立GEニュークリア・エナジー(株)主管技師

林道 寛 CLADS非常勤嘱託 前バックエンド推進部門長

鷲谷 忠博 CLADS副センター長

倉田 正輝 CLADS炉内状況把握ディビジョン長

駒 義和 CLADS廃棄物処理処分ディビジョン長

J-PO体制の導入により、POと連携した技術サポート体制を強化 (専門的助言、1 F 廃炉現場の最新情報の共有、等)



研究人材育成について



- ●研究人材育成型廃炉研究プログラム (クロスアポイントメント、博士研究員、特別研究生)
- CLADS特別研究生
- NEST、NESTフェロー受け入れ
- NDF廃炉人材研修
- NDEC(後述)
- ロボコン(後述)



- 廃炉教科書作成
- 各種セミナー
- 共同研究模索 等々

論点:他の企画案



NDECについて



これまで

英知事業採択機関(各機関) 委員選出 NDEC実行委員会(幹事機関) NDEC実施(英知事業採択機関のみ) 今年度(破線は今後)

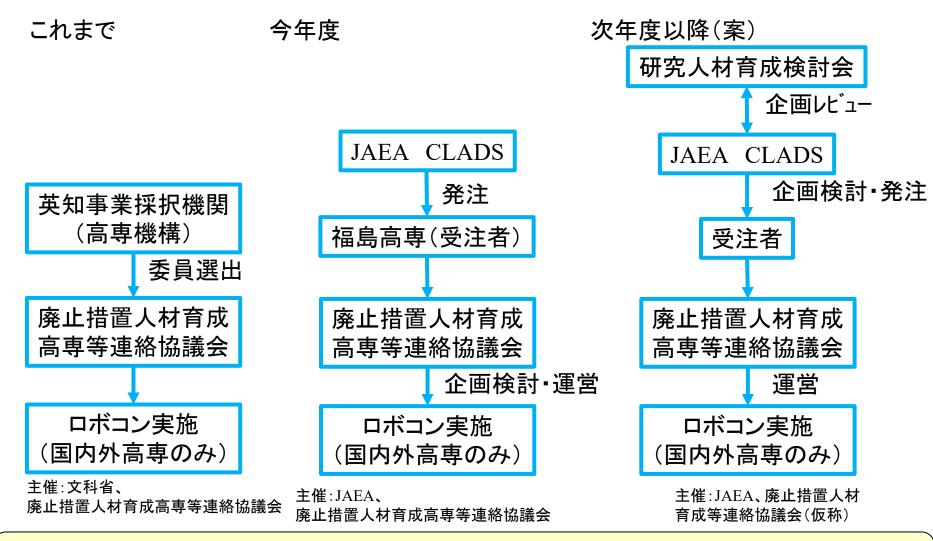


論点:英知事業採択機関以外の取り込み方



ロボコンについて





論点:高専以外のロボコンの可能性と実施方法 今後のロボコン企画のあり方



人材育成実績について



【ステアリングコミッティ評価】

- ・人材育成事業に携わった学生や若手研究者が、終了後どのようなキャリアパスをとり、 どのように廃炉と関わっているのかについてフォローアップを行うべき。
- ・発災から10 年目の節目のイベント等が検討されているが、そのようなメディアの活動等を捉えて、本事業で育ってきた人材・技術がどう貢献しているのかを対外的にPR する活動を精力的に進めるべき。
- ・若手枠への応募が伸び悩んでおり、若手研究者の参画促進という面においては、未 だ改善が必要。令和2年度の公募状況を踏まえて、若手研究者の参画を促す方策 について、引き続き検討を進めるべき。

- ・英知事業で廃炉人材育成の実績をJAEAホームページでも掲載し、メディア等に触れる機会を増やすことで、英知事業の認知度・理解度の向上としたい。
- ・そこで、第13回廃炉基盤研究プラットフォーム運営委員会 資料13-3-1~13-3-3で示した資料について4ページ程度のリバイス版を作成しJAEAホームページで掲載したい。